

## 第20回「みんなで創る自治基本条例町民会議」 委員事前意見取りまとめ結果

### テーマ⑪：連携・協力、最高規範性、前文

連携・協力（上段：条文に盛り込みたい内容や考え方等 下段：理由等）

#### <他市町村との連携>

議会及び行政は、他の市町村との広域的な連携の体制及び相互の信頼関係を確立しながら、共通の政策課題の解決に取り組む。

#### <国内外との交流>

町民、議会及び行政は、国内をはじめ国際交流を通じ、様々な人々との交流を深め、町外の人々の知恵や経験、知識を町政、まちづくりに活かすよう取り組む。

今後、一層広域的に取り組まなければならない問題が多くなってくるので、他の機関との積極的な連携を強く望むものである。

・議会、行政は、国、道との適切な役割分担を図り、連携した関係を構築するとともに、地方自治の拡充を図るものとする。

・町は近隣自治体との情報共有と相互理解のもと、連携してまちづくりを推進する。

・町は、国及び北海道と相互に連携かつ協力し、町政運営の課題の解決に取り組む。

・町は、効率的な町政運営や共通する課題を解決するため、他の市町村との連携かつ協力を進める。

近隣市町村のみならず、他市町村の取り組みは大いに参考になると思われるため。

・地域内（町民、議会、行政）の連携と協力

・他の市町村との連携と協力

・国および北海道との連携と協力

・国内外の交流

その前提となる「情報の共有」と、その課題の解決を具体化するためのシステムとの関連性

その前に？ 情報の加工＆共有するためのシステムの構築（何を「普通」とするかの整理を含む）

かつ、「事業仕分け」では無いけれど、「町」として必要な要素の整理と、誰がどれ位の「役割ブンタン」をするのか？（金銭的、具体的な「働き」として分担）の整理

まず連携するためには、状況把握がモノゴトの始まりであり、それに「何を目標にするか？」の意志統一と、それを遂行＆解決するためのシステムを創り、それを実施する…の順番があり、その実施過程での、微調整も必要になる。

言葉ではみんな解かっている！けれど、それをするのは難しい。

そのことは、言葉の平易さもさることながら、これなら出来る！ことの積み上げと、「ただより怖いモノは無い？」の再認識が必要に思われる。（条文にこと細かに書く必要は無いとは思うが）

高速道路の渋滞は「平均的な交通量より、15%の増加」したときに起こるらしい。

逆に言えば？ みんなが今より2割！なんらかのカタチで、何年間かを頑張れば、多くの課題は解決出来ると思われる。

1、他市町村との連携・協力・（情報共有、共同処理等）

2、国や道との連携協力（役割分担の明確化、対等な関係の確立）

3、国際的な交流・連携・協力（情報交換、技術提携等）

広い視野に立ち、交流を深めるとともに情報の収集、技術提携など、広域的、国際的に連携・協力することが大切

町及び町民は、さまざまな活動、交流などを通して人々の知恵または多様な意見を盛り込むに必要がある。

(他市町村との連携、協力)

町は、他市町村との情報共有と相互理解のもと共通の政策課題の解決と推進に取り組みたい。

(国内外との連携、協力)

自治体の将来性を広く展望し国際的視野をもつ人材育成や町づくりには、さまざまな国の人々との交流活動、経験及び知識を得るためにこれらを盛り込む。

町民の利便性向上につながるものは、取り入れるべきだと思います。

メリットがあればデメリットもあるかと思いますが、その説明の記載が無いのが気になります。

○他自治体や姉妹都市等との相互理解や交流の推進。

○定型的なもので良いのでは。（具体的に盛り込みたい事項はない。）